

第 14 回日本地震工学シンポジウム (2014) オーガナイズドセッション (案)

- ① セッション名 (和文) : 「原子力安全のための耐津波工学の形成」
- ② セッション名 (英文) : “Tsunami Resistant Technology for Nuclear Safety”
- ③ オーガナイザー :
 - 亀田弘行 (京都大学名誉教授)
 - 今村文彦 (東北大学教授)
 - 宮野 廣 (法政大学客員教授)

東日本大震災における福島第一原子力発電所の過酷事故の主たる原因は、原子力発電所における津波対策の不備にあった。津波対策の基礎となる津波学・津波工学の近年の進歩は著しく、津波波源の形成、津波伝播・遡上のシミュレーション、津波が物体や構築物に及ぼす波力の算定などに顕著な成果が挙げられている。これに対し、原子力施設を構造工学的観点から耐津波設計を行うための工学体系は未整備の状況であり、その構築が急務である。

この認識に基づき、日本地震工学会に「原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会」を設置し、2012年10月から2年間の予定で活動している。委員会の成果は報告書として刊行される予定であるが、本セッションでは、委員会討議で明らかになった原子力発電所の津波安全の重要課題につき、委員以外からの観点も加えて討議する。

テーマには、地震・津波工学に求められる原子力安全の基本事項、原子力発電所の地震・津波事故シナリオ、原子力施設の地震・津波安全に関する性能、リスク論に基づく津波防御の体系、津波の外力作用、津波防御に関する工学の体系化、フラジリティ評価、一般防災との関連、耐津波工学関連の解析コード、耐津波工学の体系、などを取り上げる。

このセッションは、地震工学・津波工学・原子力安全工学の分野が協力して企画運営にあたる。